

奥豊後に架かる 水の石橋

明正井路第一幹線1号橋



写真-1 明正井路第一幹線1号橋（第一拱石橋）

吉永浩二

YOSHINAGA Koji
大分県教育庁文化課

荒城の月と城下町竹田

「春高樓の花の宴…」大分と熊本を結ぶ JR 豊肥本線「豊後竹田駅」に列車が入ると、瀧廉太郎作曲、土井晩翠作詞の『荒城の月』が、ホームのスピーカーを通して流れてくる。

竹田市は、大分県の南西部に位置し、江戸時代は中川公を藩主とした岡藩 7 万石の城下町として栄えた。「岡城」は、古くは緒方三郎惟栄が、源義経を迎えるため築城したと伝えられる難攻不落の名城で、天守閣など関連した建物が残存していない現在でも、連なる石垣を中心とした偉容は、圧倒的な存在感を示し続けている。

竹田市内には、国史跡「岡城跡」をはじめ、国重要文化財「願成院本堂（愛染堂）」や国史跡「旧竹田荘」（江戸期の南画家・田能村竹田の旧居）、国史跡「岡藩主中川家墓所」、武家屋敷や商家の町並みなど、歴史や文化の薫る文化財がたくさん残されており、訪れる者の旅情を誘う。

近代化遺産の宝庫…「第一拱石橋」を訪ねる

竹田市は、「岡城跡」に象徴される江戸時代やそれ以前の歴史を物語る文化遺産に恵まれているだけでなく、明治から大正、昭和にかけて構築された構造物（＝近代化遺産）も多く、そのほとんどが今もなお利用されている。明治～大正時代に開設された農業用灌漑施設としての水路としては、市内大字植木の「明治岡本井路（石垣井路）」（大正 10 年代）や大字挾田の「若宮井路笹無田石拱橋」（1917

（大正 6）年）が、1996（平成 8）年 12 月 20 日付けで国の登録原簿に登録されている。

こうした施設の中でも特に有名なものが、1999（平成 11）年 5 月に国の重要文化財に指定された「白水溜池堰堤水利施設」で、その主堰堤は、水の流れを芸術的に表現した造形美を楽しませてくれる。通称「白水ダム」と呼ばれるこの施設に行くには、竹田市街から県道竹田・五ヶ瀬線を西南に向かうが、途中 6 連アーチ橋の下をくぐる箇所がある。この石造アーチ橋が、明正井路の内の「第一拱石橋」である。

明正井路は、緒方川上流（竹田市入田）に取水口を設けた灌漑用水路で、導水路幹線部分の総延長は約 48 km、分派用排水路は延長が約 127 km に達し、包容面積約 2 323 ha、開田面積約 402 ha（緒方町 402 ha、清川村 96 ha）というきわめて広大な面積を潤すものである。「明正」の名前は、関連施設の建設が明治～大正年間にかけて計画・実施されたことによるが、井路本線（第一幹線、第二幹線）の工事は、1917（大正 6）年 11 月から 1924（大正 13）年 6 月にかけて行われた。井路の延長上には多くの川や谷があるため、明正井路全体では合わせて大小 17 基の水路橋が建設されている。当時設計に従事していた矢島義一技師が心労のあまり健康を害し自ら命を絶ったという事件が発生しており、こうしたことからかなりの難工事であったことが想像される。

この中で最も大規模な水路橋が、先述の「第一拱石橋」



写真-2 橋銘板



写真-3 第一拱石橋用水路部分



写真-4 重要文化財 白水溜池堰堤水利施設（主堰堤）



写真-5 第一拱石橋の架設工事状況
（写真提供：緒方町歴史民俗資料館）

である。正式には「明正井路第一幹線1号橋」と言うべきもので、建設年代は1919（大正8）年。規模は、「大分県の近代化遺産」（1994（平成6）年3月・大分県教育委員会発行）によると、全長：78 m、橋幅：2.8 m、拱矢：3.3 m、径間：10.7 m、環厚：60 cm、アーチ：6連である。

橋脚側面にある橋銘板には、「明正井路 第一拱石橋 大正八年成」とある。横に、揮毫者として「大分縣知事從四位勲五等 新妻駒五郎」の名前がある。「新妻駒五郎」は、大分県第18代の県知事で、安政2年生まれ、福島県出身。大分県知事赴任時の年齢は62歳で、在任期間は、1917（大正6）年1月17日～1921（大正10）年5月27日であった（『大分県史 近代篇 III』（1987（昭和62）年3月、大分県発行）より）。また、橋脚の側にある石碑には、「工事施行関係者」として、設計者：矢嶋義一、監督者：近藤正之（ほか）、請負人：直入郡人 堀貞夫、石工：熊本縣人 平林松造外八名 の記述がある。

風景の中の水路橋

「明正井路」に架かる石拱橋で、「第一拱石橋」以外の主なものは、「第一幹線2号橋（竹田市大字太田～緒方町

大字木野，1922（大正11）年，橋長：47.5 m，3連）」、「第二幹線1号橋（緒方町大字徳田，1923（大正12）年，橋長：26.9 m，単連）」、「第二幹線2号橋（緒方町大字徳田，1923（大正12）年，橋長：57.5 m，3連）」などである。いずれも、山間の田園風景の中で、地域の生業を支える施設として堂々たる風格を備えている。

1989（平成元）年には、南フランスのプロヴァンスと、この地方によく似た風情をもつ竹田市を舞台にした『詩城の旅びと』（松本清張原作）がNHKでテレビドラマ化され、「第一拱石橋（第一幹線1号橋）」を中心に、「岡城跡」など竹田市一帯でロケが行われた。

『おおいたの石橋』（大分の石橋を研究する会；2000（平成12）年4月1日発行）によると、大分県内には496基の石造アーチ橋が現存する。これらの多くが明治、大正、昭和期に築造されたもので、今もなお農業用、あるいは生活道路の一部として使われている。こうした石造アーチ橋の、景観の中での懐かしさと存在感は、それらが毎日生きていくうえで欠かせない施設であり、筆舌に尽くしがたい艱難辛苦の末に構築されたという、地域の歴史が背景にあるからであろう。